

特別寄稿 ヨーロッパ夏の音楽祭

古代ローマ遺跡で 開かれる音楽祭

～100周年を迎えたヴェローナ音楽祭～



在チューリッヒ ジャーナリスト・中 東生(なか・しのぶ)



〈ヴェローナ野外劇場〉
感動の詰まったローマ古代遺跡を外側から臨む。

昨今の日本のオペラ上演はめざましい発展を遂げている。そんな日本でもどうしても手に入れない物、それは、当たり前のことではあるが、古代ローマ遺跡である。野外劇場で催されるオペラだけは、今後どんなに日本のレベルが上がったとしても、現地に親に行くしかない。その代表格であるヴェローナ野外劇場でオペラが上演され始めて、今年100周年を迎える。世界的有名なテノール歌手であり、現在は指揮者の他、バリトン歌手としても活躍しているプラシド・ドミンゴが名誉音楽監督に任命され、「ナフツコ」の題名役を歌うというから見逃せない。

今から100年前、テノール歌手のジョヴァンニ・ゼナテッコが巨匠トウリオ・セラフィン他と、ヴェローナの野外劇場が見えるテンプルに座って、オペラ、そしてヴェルディについて話していた時、いきなりゼナテッコが「探していたのはこの野外劇場だ！」と指をさし、すぐに音響を試すために歌いに入ったという。古代ローマ人の音響効果を熟知した建築技術を目の当たりにし、経済的リスクを背負いながらも、1913年8月10日「アイータ」でヴェルディ生誕100周年を祝った。古代ローマ遺跡が現代の野外オペラフェスティバルの殿堂として生まれ変わったのである。そしてまさにその100年後の2013年8月10日に、当時の演出をもとにした「アイータ」が観られるとは、壮大なロマンだ。

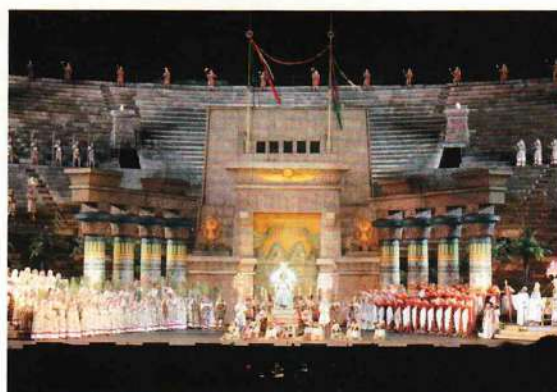


《ヴェローナ野外劇場》

開演のベルの代わりに出演者がドラを持って登場。開演を知らせます。

古代ローマ人は天文統計学にも精通
 して、雨が一番降りにくい場所に
 野外劇場を建てたという。その典型的
 な例がスイスにあるアヴァンシュ野外
 劇場だ。ヴェローナの4分の1ほどの
 規模の古代遺跡で、1995年から夏
 のオペラが催されている。天候が不安
 定なアルプス以北では基本的に野外オ
 ペラは不可能だと言われているにも拘
 らず、たまに起こる「雨天中止」にも
 めげずに音楽祭が続けられているのは、
 古代ローマ人の智慧のお陰なのである。
 オランジュ音楽祭も、古代ローマ時
 代の劇場の壁部分を使って客席をあ
 とで付け足したというが、そのせいか、
 風が吹き抜けると途端に聞こえにく
 なる。ローマのカラカラ浴場も、劇

場ではないが野外オペラに適していた。
 しかし遺跡老朽化防止のため、前方に
 舞台が作られるようになってから、音
 響が悪くなり残念だ。



《ヴェローナ野外劇場》

100年前に上演された「アイダ」からインスピレーションを受けて構成された再現版アイダの舞台

ヴェローナ野外劇場の100年の歴
 史には2回の日本ツアーが刻まれてい
 る。1989年に『アイダ』を携え
 て初来日した時、ジャーナリスト付き
 の通訳として同行したが、事務局長か
 ら、指揮者ネッロ・サンティ、アイ
 ダ役の MARIA・キアラ、アムネリス
 役のフィオレンツァ・コッソット、ラ
 ダメス役のニコラ・マルテヌッチ、そ
 して今は亡きピエロ・カプッチリとい
 う蒼々たる歌手達にいたるまで皆親切
 で、ヴェローナ野外劇場に誇りを持っ
 て公演に臨んでいたのが印象的だった。
 そんな彼らの力のお陰で、味気ない
 代々木体育館にいながらにして、ヴェ

ローナ野外劇場を疑似体験できた貴重
 な思い出だ。しかしその後本物の
 ヴェローナ野外劇場に招かれ、現実を
 知った。まだ薄明るいうちに開演し、
 段々暗くなるに従って客席に灯がと
 もつていき、現実からどんどんオペラ
 の世界に引きずり込まれていくタイム
 ワープ体験は、現地ではできないの
 であった。その感動のせい、199
 1年にヴェローナ野外劇場が2回目の
 日本ツアーとして『トゥーランドット』
 を上演した時も同じく同行していたの
 に、ほとんど記憶に残っていない。そ
 れくらい強烈なアレナ・デイ・ヴェ
 ローナの100周年は是非体験したい。

Profile

中 東生 - なか・しのぶ

グローバルプレス会員ジャーナリスト。
 東京芸術大学卒業。音楽専門誌、公
 演プログラム、ウェブマガジン等に寄稿
 するかたわら、舞台通訳等もこなす。発案者としてスタート
 から尽力してきたパーゼル歌劇場初来日ツアー（6月22日～
 7月3日）など、日瑞文化交流企画に力を入れている。



関連ツアー

陽光の南仏オランジュ音楽祭と
 エクサン・ラヴアンヌ音楽祭 8日間
 ヴェローナ音楽祭
 《ヴェルディ2大オペラ鑑賞》と
 プッチーニ音楽祭 10日間
 夏の2大音楽祭
 ヴェローナとザルツブルク 8日間

※詳細は30〜31ページをご参照ください。

《年間最優秀オペラハウス》2年連続受賞! モーツァルト スイス・バーゼル歌劇場、初来日。 フィガロの結婚

現代の“フィガロ”にふさわしい選りすぐりの
 精鋭キャストが世界中から集結!

[オーケストラ] パーゼル・シンフォニエッタ

※出演者・配役などは2013年3月現在の予定です。最終的な出演者は当日発表とさせていただきます。



[指揮] ジュリアーノ・ベック



[演出] エルマー・ゲールデン



[伯爵夫人] カルメラ・レミージュ



[アルマヴィーヴァ伯爵] クリストファー・ホルツ

2013年6月28日(金)18:30開演 東京文化会館 大ホール

入場料 (税込) S席:29,000円 A席:25,000円 B席:21,000円 C席:17,000円 D席:13,000円 座席:売切
 SS席:38,000円(良席限定シート) 最前列シート:32,000円★
 ★最前列シートおよびE席は、イープラスでの取り扱いとなります

チケットお申し込み <http://eplus.jp/basel/>
 0570-06-9993 (eコード:084752)

チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード:187-174)
 ローンチケット 0570-000-407 (Lコード:33172)
 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

絶賛発売中

バーゼル歌劇場日本公演
 公式サイト <http://theaterbasel.jp/>
 《その他の公演》
 6月22日(土)愛知県芸術劇場 /
 26日(水)富山オーバード・ホール /
 30日(日)滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
 △AMATI
 03-3560-3010 www.amati-tokyo.com
 主催:AMATI/イープラス 協賛:シンジエンジャパン株式会社